

教科・科目	理科・科学と人間生活	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	1	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：科学と人間生活				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付ける。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>				
使用教科書 副教材等	科学と人間生活（東京書籍）		(放送視聴)NHK 高校講座「科学と人間生活」		
	科学と人間生活 学習書（NHK 出版）				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、科学に対する興味・関心を高めようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 生命の科学 第2編 物質の科学 第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第1編 生命の科学 第2編 物質の科学 第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8回以上出席すること。	
	放送視聴について	2回までスクーリング回数に含めることができる。（視聴2回で1回分）
	教科別質問教室について	2回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録			
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日					
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 第1編 生命の科学 微生物とその利用	前1	1		2	4/23	4/24	—	4/20		
			3		4						
	② 第1編 生命の科学 ヒトの生命現象	前2	1		2	5/14	5/15	—	5/11		
			3		4						
	③ 第2編 物質の科学 材料とその再利用 (金属とその再利用)	前3	1		2	5/28	5/29	—	5/25		
			3		4						
	④ 第2編 物質の科学 材料とその再利用 (プラスチックとその再利用)	前4	1		2	6/11	6/12	—	6/8		
			3		4						
	⑤ 第3編 光や熱の科学 熱の性質とその利用	前5	1		2	6/25	6/26	—	6/22		
			3		4						
⑥ 第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (身近な自然景観の成り立ち)	前6	1		2	7/9	7/10	—	7/6			
		3		4							
⑦ 第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (自然災害と防災)					7/23	7/24	—	7/20			
放送 視聴	NHK 高校講座「科学と人間生活」 第2回・11回	視聴票	1		2			月	日	合格	
	NHK 高校講座「科学と人間生活」 第19回・20回	視聴票	1		2			月	日	合格	
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試			8/20	8/21	—	8/17
後期	⑧ 第1編 生命の科学 微生物とその利用	後1	1		2	10/8	10/16	—	10/5		
			3		4						
	⑨ 第1編 生命の科学 ヒトの生命現象	後2	1		2	10/22	10/23	—	10/19		
			3		4						
	⑩ 第2編 物質の科学 材料とその再利用 (金属とその再利用)	後3	1		2	11/5	11/6	—	11/9		
			3		4						
	⑪ 第2編 物質の科学 材料とその再利用 (プラスチックとその再利用)	後4	1		2	11/19	11/20	—	11/16		
			3		4						
	⑫ 第3編 光や熱の科学 熱の性質とその利用	後5	1		2	12/3	12/4	—	11/30		
			3		4						
⑬ 第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (身近な自然景観の成り立ち)	後6	1		2	12/17	12/18	—	12/14			
		3		4							
⑭ 第4編 宇宙や地球の科学 自然景観と自然災害 (自然災害と防災)					1/7	1/15	—	1/4			
放送 視聴	NHK 高校講座「科学と人間生活」 第2回・11回	視聴票	1		2			月	日	合格	
	NHK 高校講座「科学と人間生活」 第19回・20回	視聴票	1		2			月	日	合格	
試験	レポート後1～後6の内容		本試験		追再試			1/21	1/22	—	1/18

6 先生からのメッセージ

日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則や原理について考えてみましょう。また、自然現象が私たちの生活にどう関わっているか、想像しながら学びを進めましょう。疑問に思ったことを確かめる態度をもち、学んだことを正確に記録し、考察する力を伸ばしましょう。

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	2	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：化学基礎				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。				
使用教科書 副教材等	新編化学基礎（東京書籍） 新編化学基礎 学習書（NHK 出版） （放送視聴）NHK 高校講座「化学基礎」				

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解しており、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 編 化学と人間生活 2 編 物質の構成 3 編 物質の変化	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	1 編 化学と人間生活 2 編 物質の構成 3 編 物質の変化	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8回以上出席すること。	
	放送視聴について	2回までスクーリング回数に含めることができる。（視聴2回で1回分）
	教科別質問教室について	2回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 1編 化学と人間生活 2編 物質の構成 原子の構造と元素の周期表	前1	1	2	4/23	—	4/25	4/20	
	3		4						
	② 2編 物質の構成 化学結合	前2	1	2	5/14	—	5/16	5/11	
	3		4						
	③ 3編 物質の変化 物質量と化学反応式	前3	1	2	5/28	—	5/30	5/25	
	3		4						
	④ 3編 物質の変化 酸と塩基① (定義と分類)	前4	1	2	6/11	—	6/13	6/8	
	3		4						
	⑤ 3編 物質の変化 酸と塩基② (中和反応)	前5	1	2	6/25	—	6/27	6/22	
	3		4						
⑥ 3編 物質の変化 酸化還元反応① (定義)	前6	1	2	7/9	—	7/11	7/6		
3		4							
⑦ 3編 物質の変化 酸化還元反応② (金属)								7/23	—
放送 視聴	NHK 高校講座「化学基礎」 第28・29回	視聴票	1	2	月 日 合格				
	NHK 高校講座「化学基礎」 第36・37回	視聴票	1	2	月 日 合格				
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/20	—	8/22	8/17	
後期	⑧ 1編 化学と人間生活 2編 物質の構成 原子の構造と元素の周期表	後1	1	2	10/8	—	10/10	10/5	
	3		4						
	⑨ 2編 物質の構成 化学結合	後2	1	2	10/22	—	10/24	10/19	
	3		4						
	⑩ 3編 物質の変化 物質量と化学反応式	後3	1	2	11/5	—	11/7	11/9	
	3		4						
	⑪ 3編 物質の変化 酸と塩基① (定義と分類)	後4	1	2	11/19	—	11/21	11/16	
	3		4						
	⑫ 3編 物質の変化 酸と塩基② (中和反応)	後5	1	2	12/3	—	12/5	11/30	
	3		4						
⑬ 3編 物質の変化 酸化還元反応① (定義)	後6	1	2	12/17	—	12/19	12/14		
3		4							
⑭ 3編 物質の変化 酸化還元反応② (金属)								1/7	—
放送 視聴	NHK 高校講座「化学基礎」 第28・29回	視聴票	1	2	月 日 合格				
	NHK 高校講座「化学基礎」 第36・37回	視聴票	1	2	月 日 合格				
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/21	—	1/23	1/18	

6 先生からのメッセージ

単位を修得するための必要面接時間数（スクーリングへの出席時数）が8時間と多い科目なので、できるだけスクーリングに出席するよう努力してください。そうすることによって、レポートの提出もスムーズに行えると思います。

教科・科目	理科・生物基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	2	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：生物基礎				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	<p>新編生物基礎（東京書籍） （放送視聴）NHK 高校講座「生物基礎」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 編 生物の特徴 2 編 遺伝子とそのはたらき 3 編 ヒトの体の調節 4 編 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	1 編 生物の特徴 2 編 遺伝子とそのはたらき 3 編 ヒトの体の調節 4 編 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、8回以上出席すること。	
	放送視聴について	2回までスクーリング回数に含めることができる。（視聴2回で1回分）
	教科別質問教室について	2回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録		
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	① 1編 生物の特徴 生物の多様性と共通性	前1	1		2		4/23	—	4/25	4/20
			3		4					
	② 1編 生物の特徴 生物とエネルギー						5/14	—	5/16	5/11
	③ 2編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA	前2	1		2		5/28	—	5/30	5/25
			3		4					
	④ 2編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とタンパク質の合成	前3	1		2		6/11	—	6/13	6/8
			3		4					
	⑤ 3編 ヒトの体の調節 ヒトの体を調節するしくみ	前4	1		2		6/25	—	6/27	6/22
			3		4					
⑥ 3編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき	前5	1		2		7/9	—	7/11	7/6	
		3		4						
⑦ 4編 生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	前6	1		2		7/23	—	7/25	7/20	
		3		4						
放送 視聴	NHK 高校講座「生物基礎」 第16・28回	視聴票	1		2			月	日	合格
	NHK 高校講座「生物基礎」 第29・34回	視聴票	1		2			月	日	合格
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試	8/20	—	8/22	8/17	
後期	⑧ 1編 生物の特徴 生物の多様性と共通性	後1	1		2		10/8	—	10/10	10/5
			3		4					
	⑨ 1編 生物の特徴 生物とエネルギー						10/22	—	10/24	10/19
	⑩ 2編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA	後2	1		2		11/5	—	11/7	11/9
			3		4					
	⑪ 2編 遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とタンパク質の合成	後3	1		2		11/19	—	11/21	11/16
			3		4					
	⑫ 3編 ヒトの体の調節 ヒトの体を調節するしくみ	後4	1		2		12/3	—	12/5	11/30
			3		4					
⑬ 3編 ヒトの体の調節 免疫のはたらき	後5	1		2		12/17	—	12/19	12/14	
		3		4						
⑭ 4編 生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	後6	1		2		1/7	—	1/9	1/4	
		3		4						
放送 視聴	NHK 高校講座「生物基礎」 第16・28回	視聴票	1		2			月	日	合格
	NHK 高校講座「生物基礎」 第29・34回	視聴票	1		2			月	日	合格
試験	レポート後1～後6の内容		本試験		追再試	1/21	—	1/23	1/18	

6 先生からのメッセージ

単位を修得するための必要面接時間数（スクーリングへの出席時数）が8時間と多い科目なので、できるだけスクーリングに出席するよう努力してください。そうすることによって、レポートの提出もスムーズに行えると思います。